

No.	項目	委員からの主な意見	取組状況や今後の考え方など	関係課
1	基本目標Ⅲ 持続可能で創造性あふれるまち Ⅲ-1 安全・安心なまちづくり	魅力あるまちや、都市の魅力などの言葉がある。車の通勤や買い物の際に浜松市内を運転していて、歩道橋や川の柵のペンキの剥がれが気になる。きれいに塗るのはそんなにお金もかからない。少し対応すればまちが良くなるのではと考える。 【鈴木 元子 委員】	歩道橋については、5年毎の法定点検を実施し、点検結果に応じて修繕を実施しています。塗替えの場合、以前の塗装を剥離した上で下地処理から上塗りまでを行う必要があり、多くの時間と費用を要するため、全体の損傷状況とライフサイクルコストを踏まえ、計画的に修繕を実施しています。 川の柵については、定期的に道路パトロールや河川巡視などを行っています。発見された不具合については、損傷等の程度に応じて修繕等の措置を行うこととしており、今後も施設の適切な維持管理に努めていきます。	【土木部】 道路企画課 河川課
2	基本目標Ⅲ 持続可能で創造性あふれるまち Ⅲ-4 コンパクトでメリハリの効いたまちづくり	拠点を結ぶ交通ネットワークの形成について、主要な駅、バス停の利用者という指標があるが、これを増やそうとするはず。実際に今年の春に遠鉄さんのバス本数が減ったし、増やそうとしている割には逆行しているような状況である。 【佐藤 育男 委員】	運転手不足や利用者の減少により、路線バスの退場が進んでいます。これに対し、市としては、鉄道駅のバリアフリー化やパーク&ライド、サイクル&ライド駐車場への支援による公共交通の利便性促進や、利用啓発による公共交通機関の利用者増に取り組んでいます。 今後は、持続可能な地域交通サービスを確保していくために、利用者となる住民と市が将来の姿を共有しながら福祉政策や住民共助など様々な交通資源を活用した、総合的かつ効率的なサービスについて調査・検討を行っていきます。	【都市整備部】 交通政策課
3	基本目標Ⅲ 持続可能で創造性あふれるまち Ⅲ-1 安全・安心なまちづくり	総合戦略で色んな取組をしており、他の市町と比べて秀でているところもあり良いと思っている。先ほども橋の話が出ていたが、リスクの対応として気候変動に関し水害や土砂災害、火災などがある。浸水対策や急傾斜、橋りょうに対して取組をしていかないとまずい。企業でも停電の懸念もありそういったところも重点的にやれるとよい。 【石川 雅洋 委員】	近年の気候変動に伴う自然災害は激甚化・頻発化しており、防災・減災対策は最も重要であることから、国が進める防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策の支援のもと、特に中山間地域の主要幹線道路等、仮に被災した場合、市民生活への影響が大きい箇所から優先的にアンカー工や落石対策ネット等の土砂災害の事前対策を実施しています。また、橋梁については南海トラフ大地震を見据え、緊急輸送路上の橋梁から耐震化を図っています。 浸水対策としては、総合雨水対策計画において、関係部局が連携して事業を集中することで、被害の早期軽減を図ることとしています。計画内では、市民自らがリスクを察知し主体的な自助・共助を促進するソフト対策も組み合わせ、早期避難を促す情報提供等を行っていきます。急傾斜対策については、事業主体は静岡県であることから、今後も県へ事業推進を促していきます。	【土木部】 道路保全課 河川課
4	基本目標Ⅲ 持続可能で創造性あふれるまち Ⅲ-1 安全・安心なまちづくり	地域でどれくらいの被害が来るかというのを見える化してもらい、企業側も対応をとってほしい。どの辺が危ないのか、こういったことが予測されるといったことをオープンにしてもらえるだけでも非常によいのでお願いしたい。 【石川 雅洋 委員】	市ホームページにおいて「浜松市防災マップ」を掲載しており、そのマップでは津波の浸水域や天竜川、馬込川、芳川などの河川の洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域、市内の震度分布などの被害想定情報が、地図上で確認いただけます。インターネット環境をお持ちでない方には危機管理課や区役所などで必要な情報を、紙に印刷して、お渡ししています。今後も引き続き、ホームページや紙などで最新の情報を発信するとともに、災害時の被害想定がホームページに掲載されていることを周知していきます。	【危機管理監】 危機管理課
5	新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金	交付金の中に児童生徒1人にタブレット端末の整備があり、非常に素晴らしい取組だと思う反面、子どもたちの情報への接点が増えるということで教材に加えて、リスクリテラシーの教育もあわせて実施していただきたい。インターネットの中では心無い言葉を投げってくる人もいます。それに対して情報を制限するのではなく、自分で選んでいく力が子どもたちに必要でありその部分もコストをかけてやってほしい。道徳教育が非常に重要である。デジタルの世界に替わった後にデジタルの道徳がどういったものかをしっかりと子どもたちに伝えてほしい。 【吹野 豪 委員】	第3次浜松市教育総合計画 後期計画 教育の情報化編 において、発達段階に応じて身に付けさせたい情報活用能力について、目標を設定しており、その中で、情報活用の態度・モラル等を段階的に指導するよう各学校に示しています。 各学校において、端末利用開始時に「学習のために利用する」「大切に利用する」「相手を傷つけない」「あやしいサイトに入らない」「写真撮影時の留意事項」「健康面に留意すること」等について指導するとともに、アカウント・パスワードの管理について、学校と保護者に対して周知しています。また、情報モラルに関する指導項目や使用教材について検討しており、本年度中に学校に周知する予定です。	【学校教育部】 指導課 教育施設課
6	基本目標Ⅲ 持続可能で創造性あふれるまち Ⅲ-2 にぎわいの創出	地域が観光で稼ぐ力について、今のコロナの状況がこれからがらりと変わり元のように海外を飛び回るとは、なかなかない。浜松市の環境として太平洋、浜名湖、北遠の山々などの素晴らしい環境をずっと活かして、もっと成長戦略となるよう力を注いでほしい。 【清水 哲夫 委員】	引き続き、浜松ブランドの確立によって、国内外からの交流人口拡大を目指していきます。浜松ブランドの確立に向けては、浜松市が誇る素晴らしい環境をはじめ、歴史・文化、特産品などの地域資源を観光資源化していくことが重要であり、デジタルマーケティングを活用した認知度向上策などの取り組みを進めています。インバウンドについては、コロナ禍の長期化によって短期的には消失していますが、人口減少に伴う観光需要の落ち込みを補完することが期待されており、中・長期的な観光戦略において、その取り込みは引き続き重要だと考えています。	【産業部】 観光・CP課